北道研会報

北海道道徳教育研究会

第１８１号

発行所：北海道道徳教育研究会
事務局：〒004-0053
札幌市厚別区厚別中央３条２丁目３番１号
札幌市立信濃中学校
TEL 011-891-2503　FAX 011-891-0736
発行人：三　上　寛　晃
編集人：大久保　俊　博

札幌大会を終えて

第６０回北海道道徳教育研究大会 札幌大会
大会長　三上　寛晃
（札幌市立真栄中学校長）

第６０回北海道道徳教育研究大会札幌大会を、皆様の御支援と御協力により盛会のうちに終えることができましたことを、大変うれしく思います。改めまして、本大会の開催にあたり御尽力いただきました大会運営委員の皆様をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

小学校会場では、学級閉鎖により公開できなかったクラスも一部ありましたが、特別支援学級を含む全学年において授業公開の準備を整え、当日を迎えました。中学校では、初めて出会う生徒に授業を行うなど、持続可能な研究会を意識した新たな取組も見られました。授業後の分科会では、熱心な意見交換が行われ、今後の道徳科授業に生かすことのできる貴重な御示唆を多数いただきました。

また、二日目の午前中には、道徳教育の今日的課題を五つのテーマに分けた「課題別分科会」を実施しました。全道各地での多様な実践発表が行われ、どの分科会においても活発な議論と多くの示唆に富む御助言が交わされました。

さらに、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の堀田竜次先生からは、「児童・生徒が自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける道徳教育」と題して御講演を賜り、明日の授業からすぐに活かせる貴重な御示唆を多くいただくことができました。

このように、第６０回北海道道徳教育研究大会札幌大会は、多くの成果を収め、実り多い大会となりました。これらの成果が全道各地へ広がり、各学校の道徳教育に確かな実を結んでいくことを心より期待しております。

節目となる第６０回大会を終え、来年度の第６１回研究大会は、課題別分科会を三つに構成する新たな形で、釧路市にて開催されます。釧路の地に全道各地から多くの会員の皆様をお迎えし共に学び合う充実した大会としたいと考えております。釧路地方道徳教育研究会の皆様には大変な御負担をおかけいたしますが、全道の支援体制のもと、今できることを一つ一つ確実に進めながら、共に準備を進めてまいりたいと思います。

結びに、本大会の開催にあたり御指導を賜りました堀田竜次調査官をはじめ、北海道教育委員会、札幌市教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

また、会場校をお引き受けいただいた札幌市立元町小学校、札幌市立真栄中学校の教職員の皆様、児童生徒の皆さん、授業を公開してくださった先生方、授業別分科会・課題別分科会で提言・司会・指導助言を賜りました皆様、そして大会運営に携わってくださったすべての皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

札幌大会の開催を終えて

第６０回北海道道徳教育研究大会 札幌大会
大会運営委員長　長野　文洋
（札幌市立元町小学校長）

皆様の多大なる御支援と御協力を賜り、「第６０回北海道道徳教育研究大会　札幌大会」を盛会のうちに終えることができましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

御多用の中、御臨席賜りました多くの御来賓の皆様をはじめ、７月の全道学習会に続き二度にわたり御来道いただき、示唆に富む御講演と御助言を賜りました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、ならびに国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の堀田竜次様に、改めて深く感謝申し上げます。

また、授業公開や授業別・課題別分科会での御発表、運営、御助言などに御尽力いただきました皆様、そして当日の協議にて活発な御議論を交わしてくださった御参会の皆様にも、重ねて御礼申し上げます。

本大会では、「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける児童・生徒の育成」を大会主題とし、副主題を「主体的に道徳的問題を見出す学び」として、日々研鑽を重ねながら授業づくりに取り組んでまいりました。

さらに、「持続可能な研究会」を合言葉に、オンライン配信や研究紀要製本の廃止、業者を介さない参加受付、当日の現金による参加費徴収など、新たな試みも進めてまいりました。至らぬ点も多々あったことと存じますが、何卒御容赦くださいますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり御指導・御支援を賜りましたすべての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

第６０回北海道道徳教育研究大会札幌大会を終えて
～授業者より～

「特別支援教育における道徳」　札幌市立元町小学校　西野　直子

特別支援学級においても教科学習を精力的に行うような流れにあり、もちろん道徳科も含まれています。今回の全道大会では児童の実態から教材を小分けにして時間を設けることが必要と考えて実践したことが、よさとしてお声をいただき大変安心しました。このことで、今後日常でもより児童の姿に寄り添って、道徳の時間を大切にしていきたいと思います。貴重な経験をさせていただきまして有難うございました。

札幌市立元町小学校　酒井　利来

自分が授業者と決まったとき、「２年目の自分でいいのだろうか」と、不安になりました。そして、その不安は全道大会の授業をしている最中にもずっと残っていたままでした。しかし、終わった後に参観していただいた先生方からお褒めの言葉や助言をたくさんいただき、「授業者として参加して本当によかった」、「自分の財産になった」と思えました。これからは、授業中の自分の発問や行動一つ一つに意味をもたせられるようにもっともっとレベルアップしていきたいと思います。このような貴重な機会を与えていただきありがとうございました！

札幌市立元町小学校　　佐藤　洸綺

「先生！家帰ったら、すぐお母さん・お父さんに何かお礼しなきゃ！」そんな一言が授業後に聞こえてきました。子どもたちは家族に対して「無償の愛」の心情を育めたのではないかと思います。

またクラスで「道徳は全員が活躍する授業にしたい！」というスローガンを立てていました。本時では、クラス全員が発表する機会を自主的に行っていて「全員挙手・発言・発表」の３つを達成できました。

今後も児童とともに成長できるように一緒に学び続けていきたいと思います。

「全道研の授業を振り返って」　　札幌市立元町小学校　　木村　純平

今回の授業作りは、多くの先生方の協力に支えられました。本当にありがとうございました。子どもたちの振り返りをみると「自分だけが楽しいだけではだめだから、相手の表情を見たいと思う」「相手の立場になって考えていく」などと書かれていました。４時間通して考えてきた、「クラスの雰囲気をよりよくするために何ができるか」について、学んだことを生活に生かそうとしています。このような授業を継続できるよう励んでいきたいと思います。ありがとうございました。

「道徳　全道大会を終えて」　　札幌市立元町小学校　　郡司島　匠

授業を終えてから、当日まで自分のことで精一杯になっていた部分が多く存在したことに気が付きました。前日まで学級閉鎖ということもあり、当日はクラスの子どもたちが頑張って学習する姿を想像できず、集中できていない児童にばかり目が行き、焦り、緊張し「今回の授業の中で子どもたちに何を学ばせるか」といった意識が少なくなっていました。しかし、終わってから冷静になってワークシートを見てみると、子どもたちは、崩れたリズムの中でも一人一人がしっかり自分の考えをもち本時の授業に向き合っていたことに気付きました。今回の授業を終えて自分に足りていないことを再確認でき、改めて子どもたちに対して真剣に向き合っていこうと思いました。

今回、このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

「探究の先にあるもの」　　札幌市立真栄中学校　　遠藤　翔太

今大会で、授業をする機会や指導案検討でのご助言などをいただけたこと感謝しています。中学校１年生段階における「真理の探究」の授業は、時に難しく頭を悩ませましたが、そんな「道徳にどっぷりと浸かれた時間」がなにより楽しく道徳への考えを深めたこの時間こそが、私にとっての「真理の探究」だったように思います。これかも生徒共に、この先にあるものにたどり着けるよう邁進していきます。ありがとうございました。

札幌市立発寒中学校　　足立 あかね

この度、真栄中学校２年４組にお邪魔して、小学校教材「手品師」の授業を行いました。昨年度から中学校部会として取り組んできた「問い」と「対話」をテーマに、何度もプレ授業を行いながら、子どもたちのリアルな声を使った発問で指導案を練り上げることができました。小学校で考えてきた問いからさらに踏み込み、誠実さのその先にある影響や責任について初対面の生徒と一緒に考えを深められたことは、大きな成果であったと思います。

札幌大会記念講演会

演題「児童・生徒が自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける道徳教育を目指して」

文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
堀田　竜次 氏

札幌大会２日目、１１月１日の午前中には、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官である堀田竜次氏により、「児童・生徒が自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける道徳教育を目指して」と題して御講演をいただきました。

御講演では、道徳教育における「考え、議論する道徳の徹底」の重要性を中心にお話をしていただきました。これは、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの実現につながるものであり、次期学習指導要領の主要な視点として示されている、多様な子どもたちの深い学びをより確かなものにする、多様性の包摂、深い学びの実現、実現可能性の確保に結び付いていくものでした。

道徳科の授業では、一つの対象（御講演では鹿児島県の桜島を例にお話いただきました）でも、見え方や捉え方が異なるように、物事を多面的・多角的に考えることが必須であり、そのために対話と議論が必要とされます。教員は、道徳的価値の対立を取り扱うことや、道徳的実践の強調を意識し、学校の教育活動全体で道徳教育を行うべきとのことでした。

また、指導にあたり、教師は明確な指導の意図を持ち、児童生徒が教材を通して自己と深く関わり、自分の課題として考えられるよう、授業を組み立てることが大切であるとも御示唆をいただきました。

今大会の会場校となった真栄中学校と元町小学校の実践事例についても、講演時間の多くを割いて触れていただき、生徒の思考を予想した発問の工夫、ICT 端末の活用、そして話し合いが中心的な学習活動として非常に重要であることを改めて御指導いただきました。参会者一同が大会を振り返りつつ、今後の新たな目標を見出すことのできた大変有意義な講演会となりました。

大会記録